

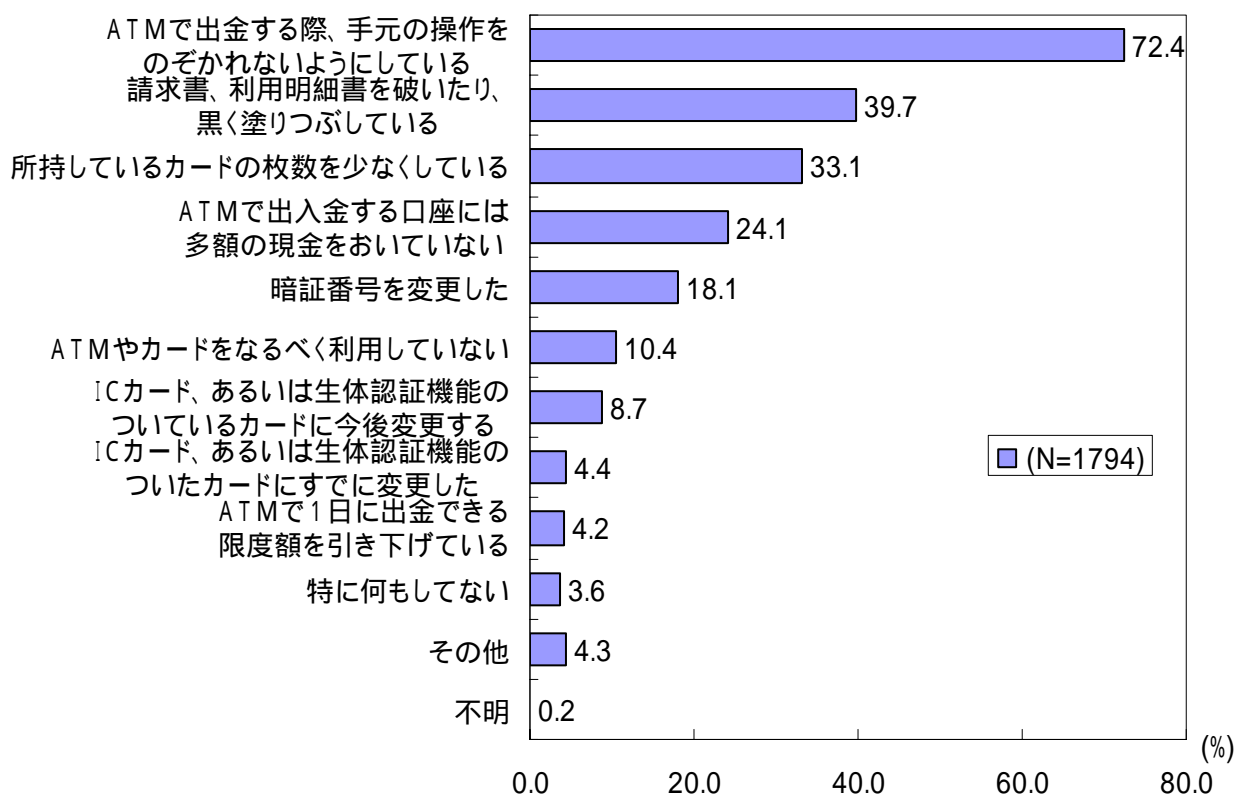
・ キャッシュカード・クレジットカードのセキュリティについて

1. スキミングの被害防止対策（複数回答）

問9 スキミングの被害防止のためにどのような対策をとっていますか。あてはまるものをすべて選んでください。（はいいくつでも）

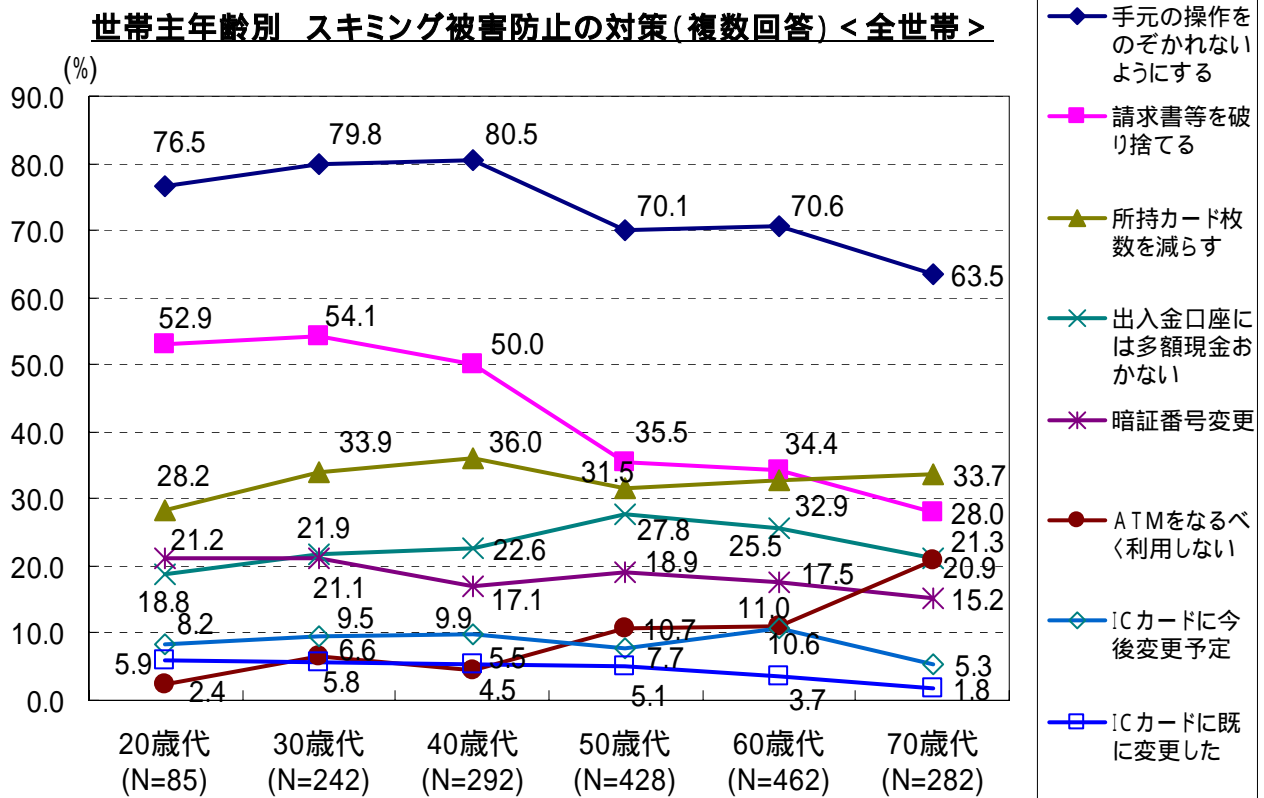
スキミング被害防止のための対策としては、「ATMで出金する際、手元の操作をのぞかれないようにする」(72.4%)が最も高く、次いで、「請求書、利用明細書を破いたり、黒く塗りつぶしたりしている」(39.7%)、「所持しているカードの枚数を少なくしている」(33.1%)が続いている。

スキミング被害防止のための対策(複数回答) <全世帯>



<世帯主年齢別> (全世界帯)

全世界帯について、世帯主の年齢別にみると、20歳代から40歳代にかけては「ATMで出金する際、手元の操作をのぞかれぬようにしている」の回答率が約8割で推移しているが、50歳代以上になるとその割合は減少している。この傾向は「請求書、利用明細書を破いたり、黒く塗りつぶしたりしている」の回答率の推移と類似している。一方、「ATMやカードをなるべく利用していない(窓口で出金している)」の回答率は50歳代以上で上昇し、70歳代(20.9%)の割合は20歳代(2.4%)の割合の約10倍にも上っている。

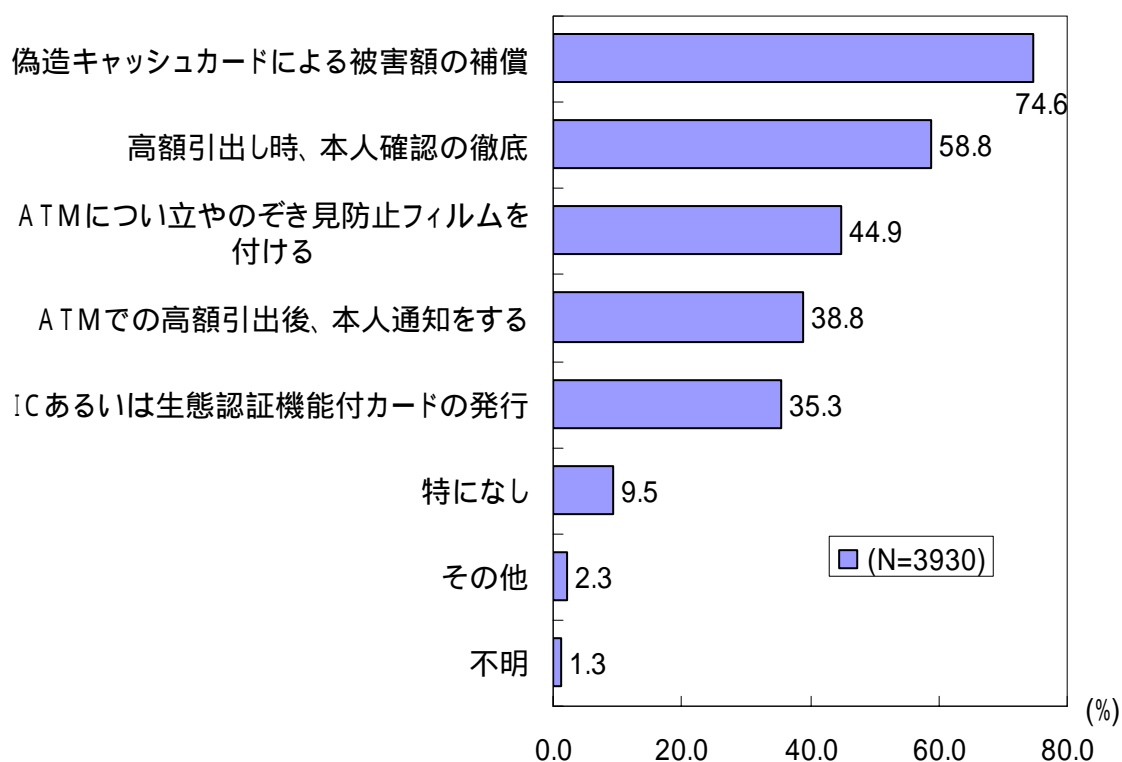


2. 金融機関に対するセキュリティに関する要望（複数回答）

問10 金融機関に対して、セキュリティに関する要望としてあてはまるものをすべて選んでください。（はいくつでも）

金融機関に対するセキュリティに関する要望では「金融機関が偽造キャッシュカードによる被害額を補償する」が74.6%と最も高く、次いで、「ATMでの高額引出し時、本人確認を徹底する」が58.8%、「ATM脇につい立を設置したり、画面にのぞき見防止フィルムを付ける」が44.9%であった。

セキュリティに関する要望（複数回答）＜全世帯＞



<貯蓄総額別> (全世帯)

金融機関に対するセキュリティに関する要望について、貯蓄総額別にみると、どの貯蓄額世帯も「金融機関が偽造キャッシュカードによる被害額を補償する」が最も高く7～8割で推移している。また、「高額の引き出し時、電話・メール等で本人に通知する」は貯蓄総額が3,000万円以上の世帯で7割を超えていることがわかる。

